

## 土砂災害から身を守ろう

雨の日が続いたり、大雨が降ると心配なのが、土砂災害です。6月は土砂災害防止月間です。皆さんはもしもの時の備えは大丈夫ですか？

近年、局所的な豪雨や長雨が増えていますので、今まで以上に土砂災害への備えをしていく必要があります。

土砂災害から大切な命を守るために知っておいていただきたいことを3つ、お伝えします。

ひとつめは、「ハザードマップ」です。

「ハザードマップ」とは、市町村が配布している、災害の起きる恐れがある場所や避難場所などの防災情報が示された地図のことです。例えば、土砂災害の起きる恐れがある場所は、「土砂災害警戒区域:イエローゾーン」「土砂災害特別警戒区域:レッドゾーン」に指定されていますので、ご自宅の場所が黄色や赤になっている方は、特に注意が必要です。

2つめは、「いつ、土砂災害が起きる可能性があるのか」を事前に知るということです。気象情報や防災情報は、テレビやインターネットなど様々な方法でチェックすることができます。

県でも、「長野県河川砂防情報ステーション」というサイトを開設しています。お住いの地域のリアルタイムの降雨状況や災害の危険度などを確認することができます。また、大雨注意報や土砂災害警戒情報等が発表されたときに、「長野県防災情報メール」を配信するサービスも受け付けていますので、ぜひご活用ください。

また、気象庁で公開している「キキクル」というサイトをご存じでしょうか。

雨による災害の危険度を5段階で色分けして地図上にリアルタイムに表示するものです。災害から命を守ることができる情報ですのであわせて活用ください。

3つめ、皆様に必ず覚えていただきたいことがあります。雨が止んだ後も土砂災害に注意していただきたいということです。

土砂災害の原因となる土の中に貯まった水が、元の状態に戻るまでには数日かかります。そのため、大雨注意報などが解除された後もしばらくの間は、崖や沢などの危険な場所には絶対に近寄らないでください。小石が落ちたり、水が湧いたりしているような場所など、いつもと様子が違う場所は特に危険です。土砂災害は、いったん発生すると、規模が大きく、移動速度が速いため、その場から逃げることは非常に困難です。雨が止んだ後も十分に注意していただきたいと思います。

ご紹介したことを、身近な大切な方やご近所にもお話しいただき、いざという時どうするか決めておいてください。ご自身と大切な人の命を守るため、しっかりと防災意識をもって日々を送りましょう。